

国語力を伸ばす

平成23年度版教科書のご案内

今、求められる「国語力」とは何でしょうか。
その力をつけさせるために、
新しい教科書にはどのような工夫がなされているのでしょうか。
光村図書の教科書編集にたずさわった三人の先生方に
語り合っていました。

鼎談

内田伸子

(お茶の水女子大学 教授)

阿部昇

(秋田大学 教授)

興水かおり

(港区立青南小学校 校長)

今、求められる「国語力」

興水 一口に「国語力」と言っても、さまざまな力が考えられますが、先生方が、今の子どもたちに身につけさせたい「国語力」とは何でしょうか。

内田 PISA調査(※1)では、論証・論述問題に白紙解答が多いという日本の子どもたちの実態が明らかになりました。全国学力・学習状況調査でも同様の結果が出ていますので、論証し論述する力を、小学校段階からきちんと身につけさせたいですね。そのためには、「話す・聞く・読む・書く」といった活動を、批評的に行う必要があると思っています。

阿部 文章や作品の「よい点はここだ」「わかりにくい点はここで、こうしたらもっとよくなる」と批評することはとても大事で、

そういった「評価する力」が日本の子どもたちはとても弱かったように思います。

内田 阿部先生は、お茶の水女子大学のCOEプログラムで、国語学力検査(※2)の責任者を務めていらっやいますね。その結果をご紹介いただけますか。

阿部 おおまかに言えば、PISA調査とほぼ同様の結果が出ました。文章の書かれ方や工夫を、文章から少し離れて把握する「メタ(※3)的に読む力」や、文章の構造や構成を考えながら読んだり理解したりする「俯瞰的に読む力」が弱い。私はそこをきちんと身につけさせたいです。

興水 PISAは義務教育の指導を終えた段階の調査ですよ。ですから、私はそこに行き着くまでに、小学校で何ができるだろうと考えています。内田先生がおっしゃる論証し論述する力をつけさせるために、小学校低学年から、言葉から想像する力や

感じる力を掘り起こしたいと思っています。

阿部 その力をつけるために、物語でいえば、作品に浸ることが大事でしょう。ただし、作品に浸りつつ、少し離れて作品を見たり、角度を変えて想像したり、評価したりすることも大事。先ほど「メタ的に読む力」と言いましたが、作品に浸りながら少し離れてみる、また、「俯瞰的に読む力」ということでは、部分を大事にしながら作品全体を見渡してみる、そういう指導がこれからは求められると思います。

内田 それによって、子どもたちは作品や文章をもっと豊かに感じたり想像したりすることができるようですね。

興水 今、映像の文化が隆盛を極めていますが、子どもたちのまわりには映像があふれていて、映像から受けるイメージで物事を考えることは多いけれど、言語からイメージをふくらませて考えることが少

うちだのびこ
内田伸子

群馬県生まれ。お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科教授。学術博士。専門は発達心理学、認知心理学。お茶の水女子大学21世紀COEプログラム「誕生から死までの人間発達科学」の拠点リーダー、日本学会議会員はじめ、政府・学会関係の要職を務める。著書に、『発達心理学—ことばの獲得と教育』（岩波書店）、『幼児心理学への招待—子どもの世界づくり』（サイエンス社）など。



論述し論証する力を

きちんと身につけさせたいですね。

※3 メタ(meta)
「超えて」「高次の」などの意。「メタ言語」「メタ認知」のように、接頭語的に用いられる。

※2 お茶の水女子大学COEプログラムで行った国語学力検査
文部科学省21世紀COEプログラム「誕生から死までの人間発達科学」のプロジェクトの一環として、小3・小6・中3・高3を対象に2003年から大規模な学力検査を行っている。その中の国語学力検査。認識力、思考力、判断力などを重視している。

※1 PISA調査
OECD(経済協力開発機構)が2000年から3年ごとに行っている、義務教育修了段階の15歳の生徒を対象にした学習到達度調査。

あべのぼる
阿部 昇

東京都生まれ。秋田大学教育文化学部教授、秋田大学教育文化学部附属小学校校長。専門は国語教育学。全国大学国語教育学会理事、日本NIE学会理事、日本教育方法学会常任理事、お茶の水女子大学COEプログラム国語学力検査責任者、秋田県検証改善委員会委員長。著書に、『文章吟味力を鍛える一教科書・メディア・総合の吟味』『授業づくりのための「説明的文章教材」の徹底批判』（以上、明治図書）など。



『ぜひ説明文をご覧ください』と
力説したいです。

なくなってきた感じがします。ですから、その力を国語の授業のなかで養っていききたいですね。

さらに充実した説明文

内田 今回、編集委員として、新しい教科書の編集にそれぞれたずさわりました。今お話したような力がつけられるよう、さまざまな試みができたんじゃないでしょうか。

阿部 私は特に、説明文にかかりました。光村の国語教科書は「文学作品が優れている」という印象をおもちの先生が多いと思います。もちろん文学作品もすばらしいのですが、今回の教科書では、「ぜひ説明文をご覧ください」と力説したいです（笑）。
内田 すぐれた教材がたくさん入りましたよね。「説明文二教材構成」（p.12・13参照）

も新しい試みでしょう。

興水 昔の教科書にはあったのですが、授業時数の削減とともになくなってしまうたんです。現場のニーズが反映されて、今回、再び取り上げられました。

内田 三年から六年の上巻に位置づけられていますね。

阿部 例えば、三年では「イルカのねむり方」と「ありの行列」の二教材がセットになっています（p.15参照）。最初に「イルカのねむり方」という短い説明文を読み、構成や問いと答えの関係などをつかんでから、「ありの行列」の学習へ入ると俯瞰的な読みがスムーズにできるようになります。

内田 「イルカ」と「あり」というように、どちらも生き物が題材で、二教材が関連のある題材で構成されているのいいですね。
阿部 五年では、「見立てる」と「生き物は円柱形」（p.22・23参照）がセットになっ

ていて、これも題材が関連しています。「生き物は円柱形」は、生物学者・本川達雄さんの文章で、仮説的な要素が入っているとおもしろい説明文です。

興水 本文のなかで「仮に、生き物の基本が円柱形だとすると、それには理由があるにちがいない。円柱形だと、どんないいことがあるのだろう」と、問いかけていますね。
内田 仮説的な説明文を学ぶことはとても大事なことです。科学的な理論は、「至論」ではなく、「試論」です。答えは一つではないし、いろいろな可能性がある。知の探究者になるために、小学生の頃から仮説的な文章にふれてほしいですね。

阿部 今までの日本の国語教科書を見ても、すでに明らかになっている事柄について説明するという説明文が多かったように思います。ですから、人によって見解が分かれる事柄について自分の意見を主張

するという説明文が位置づけられたというのは、とてもいいことです。

興水 六年に掲載される『鳥獣戯画を読む』も、そういう説明文といえるでしょうが。

阿部 ええ。アニメーション映画監督の高畑勲さんの文章ですが、「自分は鳥獣戯画をこう見る」と、自分の見方を述べた後に「今度は君たちが考える番だ」と投げかけていますね。

内田 今までは、「答えが一つあって、答えに至る道も一本」という収束的な思考すなわち暗記能力に偏りがちでした。しかし、これからは拡散的な思考を身につけなければいけないと思います。

興水 答えは複数あるし、答えに至る道も複数あるということですね。

阿部 また、多くの手引きには、「筆者はこう言っているけど、あなたはこう思うの？」という問いが含まれています。文章を評価したり吟味したりする内容がきちんと位置づけられています。

内田 それから、説明文は低学年もいいんですよ。例えば「どうぶつの赤ちゃん」。今まではライオンとしまうまの赤ちゃんの説明だけでしたが、今回はその後にカンガルーの赤ちゃんの説明が入りました。

「どうぶつの赤ちゃん」（一年下）



カンガルーの赤ちゃんを、ライオンやしまうまとくらべて読むよ。



イラスト…ささきみお



言語活動を通して力をつける

内田 先ほど手引きの話が出ましたが、新しい教科書は手引きがとて充実しているでしょう。子どもが読んで「この単元ではこうやって学びを展開していけばいいんだ」とわかる。つまり「学び方を学ぶ」ということが、手引きでうまく示されています。

奥水 それから、単元の冒頭には「活動目標」が示され、それが手引きと対応しています。「活動の流れ」も視覚的に示されていて、子どもが見てわかりやすいんです。

阿部 今回の学習指導要領では言語活動の充実が謳われています。それ自体はともよいことですが、ともすれば「活動をしたらそれでOK」となりがちです。光村の教科書は、「この活動をお願いします。その活動を通してこういう力をつけます」というのがきちんとセットになって示されている。例えば「聞き取りメモの工夫」(四年下)では、説明を聞きながらメモをとる活動のなかで、「かじょう書きにする」「単語だけを書く」「記号を使う」などの方法を学習しメモをとる力を身につけていくということが明示されています。

内田 言語活動を通して学ぶというのは、英語で言う「Learning by doing」で

す。「doing」ばかりに目がいきがちですが、阿部先生がおっしゃるように、大事なのは「Learning」で、それが教科書に明確に示されているのはいいですね。

奥水 目標があつて、それに対する活動の道筋がはっきりしていると思うんです。例えば、三年の「気になる記号」だと、「ほうこくする文章を書く」という目標があつて、メモの取り方や報告文が、子どもの作例というかたちでわかりやすく示されています。

内田 具体例を示し、子どもが主体的に学ぶための配慮が行き届いていますよね。自立した探究者を育てようという意図が伝わってくる教科書だと思います。

主体的な学習を促す

奥水 今回、高学年は学年一冊の合本形式にしました。ここにも、子どもが主体的に教科書を使いこなして学んでほしいという思いがこめられていると思うのですが。

阿部 私は、合本に大賛成です。高学年になれば、前の教材で学習したことを振り返ったり、前の教材と今の教材を比較したりすることがより必要になってきますからね。

内田 振り返りもできますし、自主的に読み進めることもできます。国語が好きな子

「気になる記号」(三年上)

気になる記号

わたしたちのまわりの、記号をつかって表されているものがたくさんあります。記号を集めて、何を表しているのか調べよう。そして、分かったことを文章に書いて、友だちと知らせ合おう。

- 活動のながれ
- ① 調べるものをきめて、ざいりょうを集める。
・カードに書く。
 - ② 集めたざいりょうをもとに考える。
 - ③ ほうこくする文章を書く。
 - ④ 読み合って、かんそうをつたえる。



③ ほうこくする文章を書こう
調べて分かったことや考えたことを、段落ごとに分けて書きましょう。

活動目標

③ ほうこくする文章を書こう
調べて分かったことや考えたことを、段落ごとに分けて書きましょう。

活動の流れ

- 活動のながれ
- ① 調べるものをきめて、ざいりょうを集める。
・カードに書く。
 - ② 集めたざいりょうをもとに考える。
 - ③ ほうこくする文章を書く。
 - ④ 読み合って、かんそうをつたえる。

取材のしかた

6月14日(火)

矢じるしカード
・あった場所
・矢じるしの長さ
・20cmぐらい
・表していること
この先に、バスのり場がある。



銀行
通学路
集める
記号



作例

表現の最終形が見えるように、子どもの作例を具体的に示す。

こうやって報告する文章を書けばいいんだね。

例が示してあるから、わかりやすいね。

これから何をするのがイメージしやすいよ。

交流

具体的な発言例とともに交流する観点を明示。



こしみず 奥水かおり

広島県生まれ。東京都港区立青南小学校校長。23年の教員生活を経て港区教育委員会指導主事、東京都教育相談センター統括指導主事、東京都教育庁主任指導主事を務める。2006年より現職。「言葉の力」やコミュニケーション能力の育成、国語科の実践的な研究に取り組む。編著書に『イラスト版 こころのコミュニケーション—子どもとマスターする49の話の聞き方・伝え方』（合同出版）など。



新しい教科書は「らせん階段」。 国語の力が確かになっていく階段です。

は、新学期に教科書をもらうと、どんどん先を読みますよ。

奥水 また、一年間の学習が見通せるように、巻頭に「学習の見通しをもとう」というページを見開きで入れているのもいいですね。これは、各単元に入っている「たいせつ」(※4)を、各領域ごとに表にしたものです。中学年までは巻末に位置づけられています。高学年は巻頭に位置づけ、一年間の学習の見通しをもたせる。子どもの発達段階に合わせているんです。

阿部 今までの国語の授業では、学習を振り返ることは少なかったように思うのです。算数の授業では、分数のわり算を勉強する前に、分数のかけ算を必ず振り返りますよね。国語でも、そのような振り返らせる場面を意図的につくっていくべきだと思っています。前に学習したことを活かして、新しい単元を学ぶ。それが、活用力をつける

ということにもつながると思います。

内田 そして先生がそのような場面を積極的につくっていくことで、子どもも自主的に前の学習を振り返るようになるのでしょうか。

らせん的に学習を積み重ねる

奥水 新しい教科書では、今まで以上に系統的に単元・教材が配置されていて、振り返りがしやすいんです。それは大きな特長ですね。

阿部 そうですね。例えば三年生だと「あの行列」で、「はじめ・中・おわり」という構成を学習します。このときの「はじめ」は「問い」の形になっています。その後に出てくる「すがたをかえる大豆」も同じ構成ですが「はじめ」は「問い」になっていない。「いろいろ手をくわえて、おいしく食べるくふうをしました」と提示型の「はじめ」になっている。そこで、自分で「問い」をつ

くってみるという学習をします。このように、少しずつバリエーションを変えて系統立てて配列されているのです。前に学んだことを生かしつつ、新しいことを学習できるよう、うまくしかけられていると思います。

奥水 そして、学年のなかだけでなく、六年間で各領域できちんと系統立てて教材が配列されています。

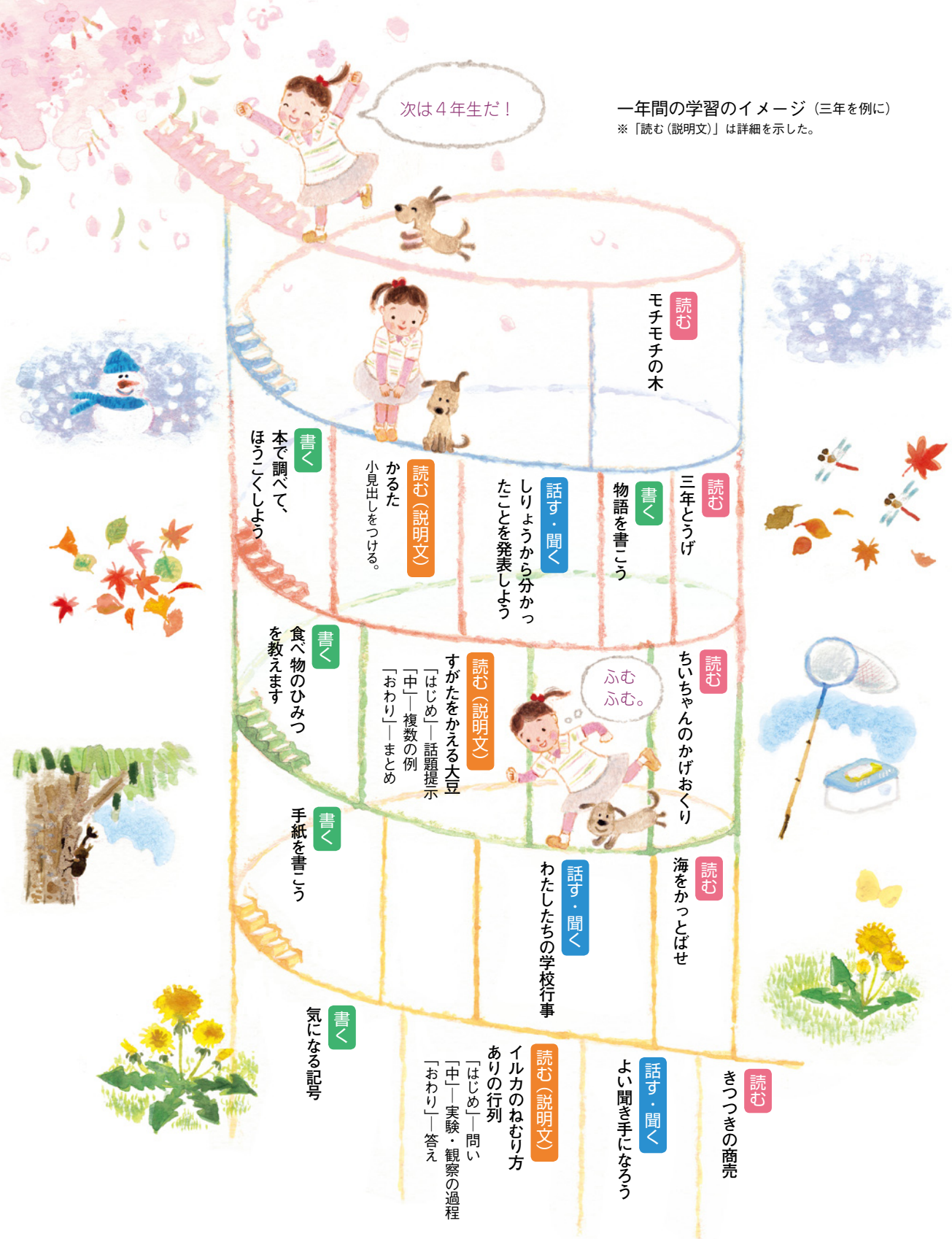
内田 教材の配列はぜひぶん気配りがされていますよね。発達というのは、まっすぐな階段をのぼるように進むと思われがちですが、そうではありません。らせん階段をぐるぐるとのぼるように、歩いてきた道を振り返りながら、行きつ戻りつしながら進むのです。

奥水 新しい教科書はまさに、らせん階段ですね。そのらせん階段をのぼると、国語の力が確かになっていく、生きて働く力になっていくのですね。

阿部 学習指導要領解説 国語科編には「国

一年間の学習のイメージ (三年を例に)

※「読む(説明文)」は詳細を示した。



※4 「たいせつ」
光村図書の国語教科書の手引きに位置づけられている。その学習でどんな国語の力を身につければよいのかを示したもの。



語科の指導内容は、系統的・段階的に上の学年につながっていくとともに、螺旋的・反復的に繰り返しながら学習し、能力の定着を図る」とありますが、それにきちんと答えられた教科書であると自負しています。

「対話」や理由を話す学習 入門期

奥水 内田先生は発達心理学がご専門で、入門期の編集に深くかわかっていらっしましたね。

内田 今回、入門期に「対話」の場面を多く位置づけました。学習指導要領でも「交流」が一つのキーワードになっていますが、やはり交流を通して「知」をいっしょにつくっていきたいと思っています。

阿部 例えば「なんて いったら いいのかな」では、どんな授業が考えられるでしょうか。

もにとつては難しいですからね。

内田 それができるようになるのが五歳後半ぐらいからなので、入門期に入れました。ここで大事なのは、「どうしてか」という表現だけではないんです。

奥水 思考の道筋ですね。

内田 そうです。私は広島県の検証改善委員会（※5）にかかわっているのですが、今回、そこでの検証結果をふまえて、入門期の教材を考えていました。

阿部 どのような検証をされたのですか。

内田 広島県安芸高田市立向原小学校で、結論先行型で理由づけ・論拠づけの言語形式の訓練を行い、さらに対話的学習形態で、自分の考えをはっきりさせていくという「論理科」カリキュラム（※6）を開発しました。一年間「論理科」を受けた子どもと、受けなかった子どもに作文を書かせたのですが、「論理科」を受けている子は、論拠を示したり、簡潔で必要十分な説明ができたりする割合が高いのです。

奥水 それで入門期から、対話の場面や「どうしてか」という結論先行型の学習を取り入れていったのですね。

内田 入門期からそういう学習を積み上げて論理力を身につけてほしいと思っています。

阿部 入門期の授業というのは、これから



内田 二人一組になって代わりばんこにお話をつくりたり説明をふくらましていく。

あるいは、四人ぐらゐのグループになってお話を考えたりして、想像をふくらませていいでしょう。学級のなかの人間関係ができていないと、ここで豊かなお話はできません。ですから、クラスのなかで仲間がどれくらいできているかというバロメーターにもなるかもしれません。

奥水 それから、「わけを はなそう」という教材も新しく入りました。「どうしてか」という」という表現をつかって、理由を説明するというものです。

内田 私が調査したデータによると、「だつて」だもん」という言い方は二歳後半から出てきます。しかし理由づけの言葉としてちゃんと使うには、時間概念を習得してからでないと思えないんです。

阿部 時間をさかのぼることは、幼い子ども



言葉を獲得する子どもたちに教える、とても楽しいものです。でも楽しいだけではだめで、理由を示して話したり、対話するなかで自分の考えに気づいたりさせなければいけない。新しい教科書では、それがうまく教材として組み込まれていて、上の学年の学習の伏線のような役割を担っていると思います。

新しい教科書にこめる思い

阿部 新版教科書の特長を一通り話してきましたが、私は、こんなに「しかけ」にあふれた魅力的な教科書はこれまでになかったと思っています。

内田 前の学習を振り返ることができるしかけ、言語活動をスムーズに授業に取り込むことができるしかけ、子どもたちが主体的に学習できるしかけ、さまざまなか

「わけを はなそう」(一年上)



がありますね。

奥水 現場の立場から言いますと、国語が専門ではない教師が大勢いるなか、手引きの充実、言語活動の目標と活動の流れがはっきりしているなどの特徴はたいへんありがたいですね。子どもが理解して主体的に学べるのと同時に、教師も「ああ、こうやって進めればよいのか」と、この教科書からたくさんことを学べるはずなんです。

阿部 あとは、先生方がこれらのしかけをどう使ってくださいるかですね。

内田 私たちの思いはこの十冊の教科書にしっかりと実現することができました。これを実質化するのには、現場の先生方と子どもたちです。私は創られたのです。魂を込めるのは子どもたち、そして先生方です。ぜひこの教科書をお使いになって、使ってみてのご感想や子どもの学びについてのご報告をお寄せいただきたいと思います。それを、私たちは楽しみにしています。



※6 「論理科」カリキュラム

結論先行型で根拠をあげて意見を述べさせる指導が言語力・論理力にどのような効果を与えるのか、向原小学校や広島県内の小学校の3年生・5年生を対象に一年間の実践が行われた。その結果、論理科教育を受けることで、因果的思考に効果があがる、時系列を用いるのではない、因果律、可逆的操作ができることが検証された。

※5 検証改善委員会

全国学力・学習状況調査の結果等を活用・分析し、教育委員会や学校における効果的な取り組みや課題を明らかにし、改善につなげるため、都道府県・政令指定都市ごとに設置されている団体。